

Young Entrepreneurs Group of
The Fukui Chamber of Commerce and Industry

YEG FUKUI



vol. **91**

発行日/平成11年7月15日発行

発行所/福井商工会議所青年部

福井市西木田2-8-1

TEL: 0776-36-8111

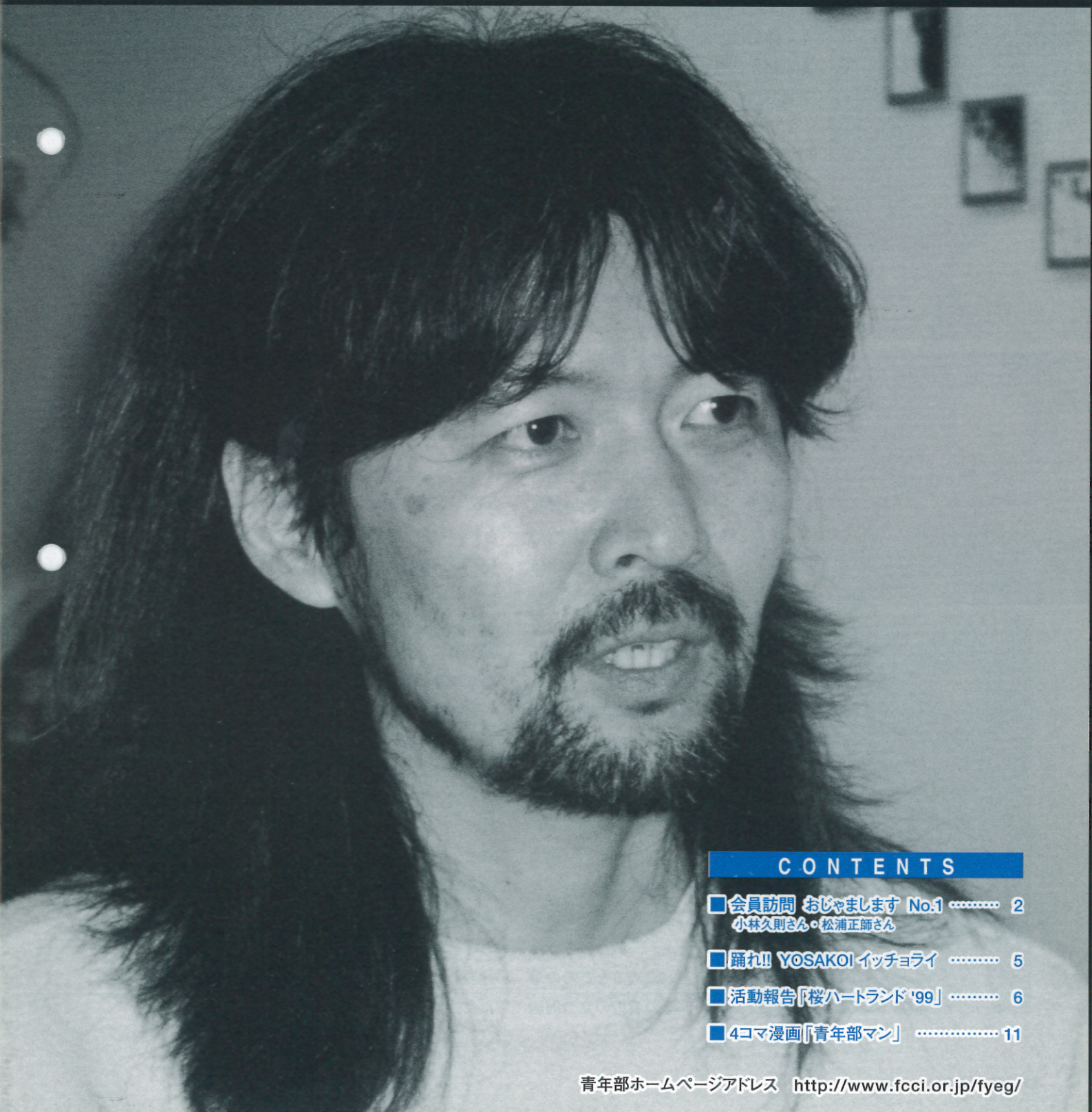
FAX: 0776-36-8588

発行者/森永克彦

編集者/江守康利

福居

福井商工会議所 青年部会報



CONTENTS

- 会員訪問 おじゃまします No.1 2
小林久則さん・松浦正師さん
- 踊れ!! YOSAKOI イッチョライ 5
- 活動報告「桜ハートランド'99」 6
- 4コマ漫画「青年部マン」 11

青年部ホームページアドレス <http://www.fcci.or.jp/fyeg/>

おじゃまします

—あなたのこと教えて—

小林 久則さん コーセン株式会社 事業開発部長

●会社の事業内容は？

屋外広告・看板・広告宣伝（放送等のメディアではない印刷物によるもの）・販売促進の企画制作を行っています。室内のサイン等も扱っています。また、関連会社としては、パドス繁盛という店舗用品の専門店があり、お店で使う備品・小物・メニュー・大売り出し等の垂れ幕などを扱っており、人型カラープリントの出力サービスも行っております。

主力の看板は、デザイン・企画・制作・施工と一貫してお客様へのサービスにお答えしています。



●ご苦労する事は？

屋外看板等の大きなものは、その設置に関して役所の許可がいらいます。その許可を得るための申請がたいへんです。全図各地の各都市に条例があるのですが、看板の高さの規制・表示面の面積の規制があります。

金沢とか京都では町並み景観条例で特に厳しく、色の規制や材質・仕様等の規制が多岐にわたっています。一方で、お客様の要望、企業のイメージカラーもありまして、どうしたらいいんだろうと悩んで、眠れないときがあります。そのようなときに、お客様の要望を満たしながら、役所の理解を得るのが難しく苦労します。

●小林さんにとって看板とは？

看板・広告は、やはり会社・お店の顔ですね。極端に言えば、飲食店がオープンして、流行るも流行らないも、看板屋さんの責任のように言われることがあります。目立つ看板がないからだとか。一概にはそうは言えないと思いますけど。お客様が求めるところの看板がよくないといけません。また、その看板の立つ周辺

例会などでは、お互い顔を合わせるが、どんな仕事をしているのかよく知らなかったり、意外に共通の趣味を持つ人がいたりします。

そういう、会員の知られていない一面を、勤務先やご家庭におじゃまして楽しくご紹介します。



福井市高木中央のコーセン(株)の社屋

環境との調和ははからないといけないし、最終的には、お客様に満足してもらえる看板づくりを目指しています。そして、繁盛してもらわなければならない。

看板というのは、工事の一番最後で、早くやりたくてもできなくて、受注から実際の設置までの期間が短く、いろいろと大変なことが多いですが、店がオープンして、看板の電灯がついて命を宿すと、ああいいなって感じで苦労が報われた気持ちになります。

●福井の街の看板についてどう思われますか？

福井の街の看板については、氾濫しすぎていて、個人的にいうと、もう少しあっさりしていた方がいい。ヨーロッパなんかに行くと、大きい看板はなくて、あってもさりげなく品のいいかたちで設置されています。しかし看板はそのお店の独自性を出していかないといけない。埋もれちゃってもいけない。矛盾する課題を統合調整していくことが難しいです。

これからは、あまり今までのデザインにとらわれなくて、新しい感覚を磨きながら新しい看板の創造に挑戦して行きたいですね。

●事業開発部長という役割については？

対外的にも、社内的にもまとめ役で、営業もします。お店のディスプレイの提案もします。営業の方で、お客様と話した仕様などの見積もりを出したり、制作上の問題点があった場合は他の方法を探したり、制作へ伝達したり、制作したものをチェックしたりします。

若い社員と話す事、聞く事を大事に考えています。つまり、若い方とのコミュニケーションを図るよう意識しています。若い社員の思いを聞きやすい環境づくりを行い、より若い人の思いや、考えを大事にして会社の新たなパワーとして行きたい。また、より開かれた会社に行きたい。

松浦 正師さん 福井アサノコンクリート(株)

人懐っこい丸い笑顔と存在感のある体格、そして青年部手帳ではちょっと気になる長髪の写真…。今回は松浦正師さんの勤務先におじゃまして、趣味のお話を中心として、その“人となり”に迫りました。

●松浦さんは、永くロック系のバンド活動をされているそうですね。まずそのあたりを。

本格的に始めたのは22才くらいからです。昔は週に数回もスタジオを借りたりして、結構練習もしましたし、金沢や大阪・名古屋など県外のライブハウスへもよく演奏活動に行きましたね。

呼ばれるだけでなく、コンサートで放送会館のピアガーデンを貸し切って400人ほど集めたこともあります。《単なる趣味の域を越えていますね》

ちなみに、青年部手帳の写真は25才の時のものです。《それはちょっと古すぎる：総務委員会》

●ももとのバンド活動の始まりは？

高校の時に、単に「女の子にもてたい。」という極普通の(?)思いがきっかけです。もともと自分では音楽の素養はあまりないと思ってましたので、弦が4本で一番簡単そうなベースを選びました。(笑)

また今はこういう体格(103Kg)ですが、昔は痩せてたんですよ。

●どのような曲を演奏されているのですか。

若い頃はオリジナルもやりましたが、最近では洋楽のコピーばかりですね。基本的にはヘビーなロック系ですが、ホップスも含めて要は求められれば何でもやります。

●バンド活動の楽しみって何でしょう。

終わって皆でお酒を飲むことでしょうかね。結構ハードですから。ライブとかでは軽く2~3Kg痩せることもあります。その分終わってからのビールは格別ですね。ギャラや利益はほぼ100%飲み代に消えます。(笑)

●今後の予定は。

7/11にハートピア春江の大ホールでの演奏が決まっています。福井の音楽シーンの裾野を広げて行こうという趣旨の企画です。《発行が遅れて申し訳ないです：編集部》

また青年部内でも、三村さんや堂越さん達有志でバンドを組もうという話があります。

●バンド活動一筋のようですが、ご家族にはどう思われていますか。

本格的にバンド活動を始めたのは結婚してからだったという、ちょっと変わったパターンだったのですが、もう諦めてるといふか(笑)、そんなもんだらうと理解してくれてると思います。

土・日にバンド活動ははいることも多いのですが、できるだけどちらか一日はちゃんと家族のためにあけるようにしてまして、そんな日は子供とプールに行ったりとか、結構いいパパもしてますよ。あと春休みの家族旅行も毎年恒例にしています。

最近うれしかったことは、ピアノを習っている上の娘(中学2年生)と一緒に演奏する機会があったことです。将来の夢ですが、娘がピアノとかボーカルとかで私のバンドと一緒にできたらいいな~と思っています。娘に聞くといやだと言ってますが。(笑)

●バンド以外の趣味はなにか？

冬はスキーとかに良く行きますね。友達との正月スキーは恒例です。あと下手ですがゴルフもやります。青年部の翔生ゴルフクラブ楽しみにしています。基本的にはアウトドア志向なんですけど、ただ家族では妻が「インドア志向？」なので、その点ではちょっと合わないですね。

あとマンガが好きで、少女マンガなんかも含めて良く読んでます。特定の作家がスキになったら、とことんという性格なので、家には随分本が溜まっています。



ニコニコとした明るいムードで「基本的にはいい加減で不良なんですよ。」と仰いながらも、これと決めたら一途に進むこだわりと、同時に意外なほど(失礼)細かな気配りのある人であることが伝わってきました。お忙しいところありがとうございました。

バンド演奏の舞台風景 同一人物とは思えない!



平成11年度 福井商工会議所青年部 基本方針

平成11年度に、福井商工会議所青年部は、創立25周年(1/4世紀)を迎えます。

これまで諸先輩の方々が築かれた当青年部の数々の偉業を、振り返ってみる必要があります。温故知新、即ち、故きを温ねて新しきを知る、何も現状を省みず、未来に夢を託すだけでは、発展はありません。歴史は繰り返すという格言があるように、過去のトレンドは、今後の世界経済にも反映される可能性があります。

そこで、この機会(創立25周年)に当青年部でも、英知を結集して、昭和49年12月以降に卒業された諸先輩の方々の資料を作成したいと思います。新規開拓で一番確実な方法、それは縁故利用法です。青年部を卒業した、あるいは在籍したOBは、我々青年部の貴重な財産です。この資料をもとに、新たなビジネスチャンスが開けるかもしれません。もちろん、個々の営業努力が大前提です。

さて、世界経済は、非常に厳しい現状にあります。世界経済をリードしてきたニューヨーク市場に陰りが出てきて、今後大きな調整があるとすれば、平成2年以降大幅に下落調整してきた東京市場が真っ先に出直る可能性があり、今がその時かもしれません。日本がいち早く立ち直るきっかけを模索しているのであれば、まず日本商工会議所が、まず福井商工会議所が、少なくとも福井商工会議所青年部が、先導者とし

て栄光の旗を振らなければなりません。青年部諸兄、意気軒昂、意気揚々、元気いっぱい頑張りましょう。

その為にどうすればいいのか?それが本年度の課題です。熟慮断行、よく考えて十分検討した上で、思い切って実行することです。平成の大不況を乗り越える為には、一人一人の気持ちの切り替えが必要です。総弱気の中で、いち早く強気に転換した者が大勝利を収めていることは、歴史が証明しています。

以上を踏まえた上で、本年度の基本方針は、

- ① 温故知新
- ② 意気軒昂
- ③ 熟慮断行
- ④ 率先垂範
- ⑤ 和気藹々

といたします。

また、本年度は、年度中に西暦2000年を迎え、20世紀を締めくくり、21世紀への架け橋となる重要なターニングポイントになる可能性があります。我々の子ども達に、この愛する福井の街を自信と誇りを持って引き継いでいくために、福井みらい21委員会を新たに設置し、明日の福井の明るい街づくりに貢献したいと思います。

平成11年度 福井商工会議所青年部組織表

会長 森永克彦	直前会長 田中義乃	相談役 佐々木清史	監事 五十嵐清人 堂越啓司	顧問 野阪泰樹 三村貞二
担当副会長 吉岡正修	委員会 総務委員会	委員長 山岸寛士	副委員長 橋敏夫 福岡靖 松本公彦 慶松裕司	構成メンバー 小沢賢治 竹下英二郎 田中敏夫 平野暁 藤田勝己 松田幸憲
金木正隆	メディア委員会	江守康利	五十嵐清人 真木康至 佐竹正博 藤澤克美	大草善一郎 竹内幹男 林洋三
金木正隆	会員交流委員会	五十嵐嘉紀	高原裕一 嵐田徹 井関学 清水史博	岩崎晋 梅田浩勝 高島正明 三村貞二 吉野弘美
出田吏市	福井みらい21委員会	前田弘	永井弘明 松村顕 大鎌利規 前田裕之 水元一暁	酒井清章 田谷仁一 橋口浩一 村野勝 山本直恵
宇佐美嘉一	例会研修委員会	清川卓二	堂越啓司 新村美智子 岩本修 野村英生	佐々木清史 田中義一 星野幸博 山田真一 佐々木茂 寺本巧 松浦正師 山本佐敏 佐山茂 中村佳一 三上徹 竹原和行 花谷政彰 村上千夏子

*委員長・副委員長は理事とする。

県連役員
森永克彦
田中義乃
吉岡正修

事務局 藤井寿朗
〒918-8580 福井市西木田2丁目8-1
福井商工会議所 業務課
TEL 0776-33-8253 FAX 0776-36-8588

踊れ!! YOSAKOI イツチヨライ

全国区の祭りを目指して——

平成11年7月30日(金)「第46回福井フェニックスまつり」において、私たち福井商工会議所青年部は、『YOSAKOI イツチヨライ』を開催します。福井の新民謡「いつちよらい節」を「青年部バージョン」(つまり現代風)にアレンジし、激しく、楽しく、かつダイナミックに踊る感動と興奮の祭りをめざします。

それは今年の2月、軍可貞則氏の講演会から始まったのです。その頃は既に次年度の新体制もほぼ決まり、私たち福井みらい21委員会は、「福井らしさ」のある新しい「何か」を模索していたときでした。特に「フェニックスまつり」における「サンバ」には限界を感じて、次なるステップが必要ではないかと考えていました。そんな時に軍司氏の講演会で、「YOSAKOIソーラン祭り」という札幌の祭りを知ったのです。

それは、ひとりの高知出身の大学生のアイデアから始まりました。数10から100人の踊り手が、手には土佐高知の「鳴子」を持ち、北海道の民謡ソーラン節をビートの効いた現代風にアレンジした音楽に合わせて踊るとい大会です。第1回はわずか10チームでしたが、昨年は第7回目にもかかわらず参加チーム280、踊り手29,000人という大きな規模になった祭りです。

講演会に出席した数名はいたく感動し、福井でも是非この祭りをやってみようじゃないかという気運が高まったのです。それは一気に委員会全体に、そして青年部全体へと広まっていったのです。この「気運ウィルス」は怒るべき感染力と発症力をもっていたのでした。

次に、私たちはこの祭りを成功させるために北海道へと向かいました。つまり、「本物を肌で感じなきゃ!」というわけでした。6月12日(13:10)札幌入り



▲夜の街でYOSAKOIソーランの参加チームと

をはたした森永会長以下9名を迎えたのは、気温28度という季節はずれの高温と、それを更に上回る人々の熱気、内臓に響く大音響、そして頭のとっぺんから足



●写真は今年のYOSAKOIソーラン祭りから(6/12~13札幌にて)

の先まで総天然色、国籍不明、性別不明、年齢不詳の踊り手集団でありました。正味2日間、この非日常的な世界にどっぷりつかりながら、わずかに残った理性をかき集めて得た結論、いや正真正銘、肌で感じた結論は「こいつは絶対、踊らなきゃダメだ!踊ればすべてがわかる!」ということでした。

だからこそ、見るものに感動と興奮そして生きる勇気までも感じさせてしまうのです。

どうでしょうか会員の皆さん、私たちの手でこのような祭りを作ってみませんか、そして福井の夏を代表する祭り、いや全国に誇れる祭りにしていきませんか。踊るのが苦手なら見るだけでもいいのです、とにかく参加して何かを感じてほしいのです。

福井みらい21委員長 前田弘



▲巨大スピーカーを積んだ地方(じかた)車がチームを先導する

桜並木よ永遠に ～桜ハートランド'99～

(H11.4月4日)

桜満開の足羽河原を人力車が快走!

子供太鼓が響き渡り、琴の調べが流れた。

4月4日(日)、我々青年部は桜ハートランド'99を、九十九橋南河川敷にて開催した。

この日は絶好の花見日和とあって、大勢の市民が堤防の桜をめあてに繰り出しており、青年部のイベント会場にも足を止めていただき、「桜並木を保存、延命させよう」という我々の思いは、多くの人々に伝わったと思う。

今年のイベントのメインは人力車だった。

午前10時に、大正ロマン漂う衣装の森永克彦会長と矢がすり姿の美女を乗せ、福井駅前を出発。だるまや西武前や商店街を廻り、九十九橋の会場まで、桜ハートランドイベントをアピールしながら福井の街を走行した。

会場ステージでは、和田風陣太鼓の子供たちの勇ましい演奏や、プロ、アマミュージシャンたちによるフ

ォークなどの歌と演奏、また、午後からは、生田流名取のお二人による琴の演奏もあり、堤防の花見客を引きつけていた。

その間、人力車は花見客を乗せ、河川敷や桜並木を走り続けた。車夫は青年部会員が交代で務めた。

茶屋テントに用意した団子や生ビールは早々に完売したが、栈敷席は思い思いにくつろぐ人々が絶えることはなかった。子供から大人まで大いに楽しんでいただけたことと思う。



▲桜の下を優雅に走る人力車
森永会長ご満悦



▶NHK等テレビ局も取材に訪れ、その日のニュースになった



来年もまた桜の花は咲くだろう。だが、この日この時の桜は一期一会である。桜ハートランドの思い出は、参加したすべての人の心の中に咲き続けていくに違いない。

子供太鼓の皆さん、生田流琴のお二人、楽しんで歌って演奏してくれたミュージシャンたち、来場していただいた皆さん、陰ながら協力していただいた方々、そして人力車を丸一日引き続けた野村英生・五十嵐嘉紀両君に、心よりの感謝を捧げたい。もちろん出田吏市副会長、前田弘委員長長の粉骨碎身にも。——スペシャルサンクスのエンディングロールは、延々と続いていくのである。

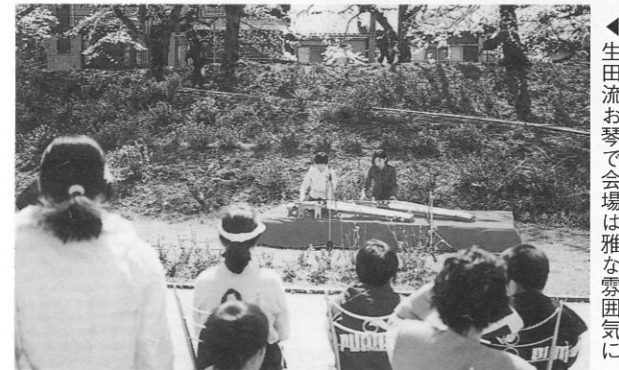
慶松 裕司



▲一般の市民にも試乗してもらった



◀和田八幡宮風陣太鼓の演奏



◀生田流お琴で会場は雅な雰囲気



◀さくらを守るための募金も行った

演じた、踊った、くたびれ果てた 越前時代行列に参加して——

(H11. 4月29日)

4月29日の第14回ふくい春まつり・越前時代行列に、今年も、私たち青年部は「幕末明治隊」として参加した。明け方まで降っていた雨もすっかり上がり、イベントの始まる午後には、絶好の祭り日和となっていた。

衣装をまとい化粧をし、街に出る。13時10分、中央公園・お祭り広場にて、寸劇『黒船来たりて会議は踊る〜招かれざる客、チャンチャンバラバラ』というなんだかよくわからない喜劇の幕開けだ。今年は新撰組

が加わり、坂本龍馬とチャンバラをするという新趣向。福井ゆかりの面々は脇役にまわる形となった。

まばらな観衆にどのように受け取っていただけたかはともかく、楽しみはやはり演じることにありと感じた。

続いて、行列に参加すべく福井城址県庁に集合。次々と出陣していく

武者隊を見送りながら、しばし休息。ミス福井と記念写真に収まる人もいた。

出陣太鼓が響き渡り、いよいよ幕末明治隊の出陣、大手門が開かれる。

大勢の見物客の視線が我々に集まってくる中を練り歩く。愛嬌をふりまくべきか、大マジ顔でいるべきか、それが問題だ。

桜通りでは人物紹介があり、フェニックス通りでは森永克彦青年部会長が扮する松平春嶽が口上を述べ、みんなで雄叫びをあげた。

そして、だるまや西武前。役名の入った番傘を「鳴子」に持ち替え、福井市初演、「よさこいソーラン踊り」の始まりだ。

ビートの効いた音楽が流れてくる。このときのために練習を積んできた、幕末明治隊29名と共演のキャンディーポップの少女達は、立ち上がり、手を挙げ足を振り踊った。一心不乱、無我夢中。

観客の拍手がわき起こったときには、息が切れ、心地よい汗が流れていた。

かくして越前時代行列は幕が降りた。しかし青年部の歩みはこれからだ。夏に向けて、来年に向けて。

慶松 裕司



◀ 西郷どんはおなじみの姿で犬(?)を連れて



▲ 大名町通りで整列して見参



▲ だるまや西武前にて、よさこいソーラン踊りを福井初披露



森永丸 出航!! 11年度通常総会・4月例会

(H11. 4月21日)

4月21日の通常総会においては、まず平成11年度新組織案が承認されました。森永克彦会長を始めとする新役員には大きな期待が寄せられています。昨年度会長田中義乃さんを始めとする旧役員の皆様には、一年間本当にご苦労様でした。

さて、議事は粛々と進んで全ての議案は全会一致で承認され、総会は無事終了することができました。その後、新入会員への青年部記章・手帳の授与が行われ、出席された4名の新入会員から、希望を胸に、自己紹介と抱負を述べてもらいました。

会場は4月例会に移り、「今思うことを語ろう」というテーマで、会員交流委員会の五十嵐君の元気一杯の司会で始まりました。最初に質問の手を挙げる練習をしたり、会員一同のつけからうまく乗せられてしまいました。委員会別に発表する本年度各委員長の姿は十人十色、今年も色々なキャラクターが集まったと言う感じでした。

林 洋三



◀ 就任のあいさつをする森永新会長



▲ 自己紹介する新入会員

委員会別に配置されたテーブルではお酒も入って、委員長に対する質問も、周囲の人を楽しませたり和ませたり。でも委員長だけは緊張していて、今年度の青年部に対する熱い思いを感じさせる例会でした。

ビジネスマナーとは、相手への思いやり (H11. 5月26日) 5月例会 青年部太郎君の Japanese Dream 第1章 — 新入社員から… —

今年度例会・研修委員会は、本年度青年部基本方針「温故知新・意気軒昂・熟慮断行・率先垂範・和気藹々」を念頭に、青年部会員の例会参加の増強、国際経済人としての人格・教養の向上を基本テーマとして、企画を出して行く方針です。

そこで「温故知新」を根底に、去る5月26日(水)福井商工会議所国際ホールにて、講師に、(有)マナーコンサルティング・中里弘穂先生を、お招きして「見直そう、もう一度自分のマナー」をテーマに、5月例会を開催いたしました。

まず、例会・研修委員会メンバーによる、電話マナーに関するコミカルな寸劇を見て、講演を行っていただきました。講演は、新入社員の社員教育、服装、電話の応対、携帯電話での注意点、車の席順について、名刺の交換など多岐にわたるもので、実際から考え方まで解りやすく解説してもらいました。

参加者も、「マナー」を身近な問題として感じていることが多いようで、講師への質疑も多く、活発な講義となりました。

どの場面にも共通しますが、「マナー」の基本は相

手への思いやりであることが分かり、また、ビジネスマンとして「ビジネスマナー」は、形式だけのものではなく、各個人のモラルが問われるものであることが強く感じ取れました。

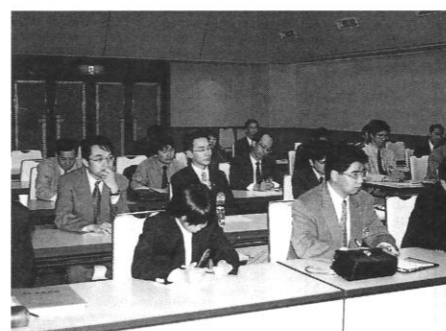
参加いただいた会員には、この講習が自己研鑽の一助になったのではないかと思います。

また、本年度例会・研修委員会は、例会終了後に「例会ご意見表」にて会員からの例会に対するご意見・ご提案を頂き、迅速に今後の例会企画に反映し、実施を図ってゆく考えです。皆さんの多数のご意見をお待ちしています。

例会・研修委員会
岩本 修



◀ 講師の中里弘穂先生



▲ 熱心に講演に聞き入る参加者

リレーコラム

「け。」「く。」…? 山形弁をご存じですか

嵐田 徹

青年部の皆さんこんにちは。私は福井に移り住んで11年になりますが、ここで私の故郷「山形弁」の一部をご紹介しますと思います。

「山形弁」の中には、日本で一番短い会話があるといわれています。それは、

Aさん:「け。」

Bさん:「く。」

という会話です。皆さん意味を理解できますか。ご説明しますと、Aさんが「食べなさい」と言ったのに対し、Bさんが「食べるよ」と返事をした会話になります。

勘違いされては困りますが、すべての山形の人は何事も一字で会話をしているわけではありません。ただこのように、意味不明な暗号のような言葉が福井の人には絶対理解できないでしょう。

私の妻は純粋な福井人ですので、結婚当初帰省の際、私の母との会話では私が「通訳」しないと全く会話になりませんでした。

福井弁も特徴のある方言ですが、おかげさまで私は現在「山形弁」「福井弁」「標準語」の3カ国弁を操れます。

今回は、宮本武さんをお願いしたいと思います。

新入会員紹介

99年1月～5月入会会員



はやし 洋三

O型 S33.6.25生
勤務先: 街昭和不動産 福井営業所
業種: 不動産業
メディア委員会



はな や まさ あき
花谷 政彰

O型 S37.8.19生
勤務先: 南インターワーク
業種: 環境改善・省コスト機器販売
例会研修委員会



とも だ ひろ みち
友田 博道

O型 S37.5.12生
勤務先: 友田建築設計事務所
業種: 建築設計
福井みらい21委員会



みず もと かず のり
水元 一徳

A型 S42.9.10生
勤務先: 株式会社みずもと
業種: 酒類・米販売
福井みらい21委員会



むら の まさる
村野 勝

B型 S40.8.1生
勤務先: 村野勝税理士事務所
業種: 税理士業
福井みらい21委員会



つば た よう こ
坪田 陽子

B型 S38.3.20生
勤務先: 坪田パレエ団
業種: パレエ教授
総務委員会



にし ごり りょう じ
錦織 綾治

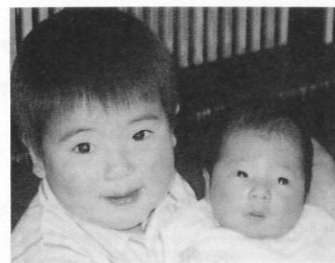
A型 S38.5.12生
勤務先: 錦織綾治事務所
業種: 土地家屋調査士
総務委員会

赤ちゃんおめでとう!!

●宇佐美嘉一さん

長女 ^{めい}芽泉 ちゃん
平成11年4月2日生

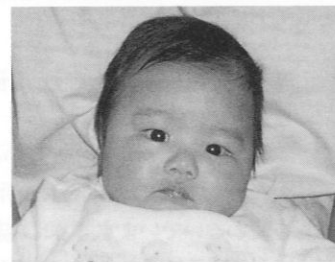
◆誰よりも早い誕生日…
あ～悲しい(めい談)



●加藤 了嗣さん

長女 さくら ちゃん
平成11年3月13日生

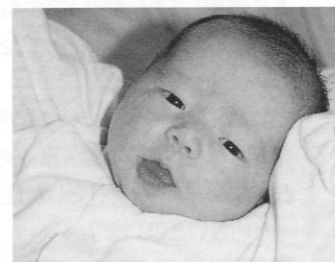
◆メチャ2かわいいです。
一度見に来てね。



●清水 榮一さん

次女 ^{みお}美櫻 ちゃん
平成11年4月4日生

◆おうちでうまれました。
v(^v)



編集後記

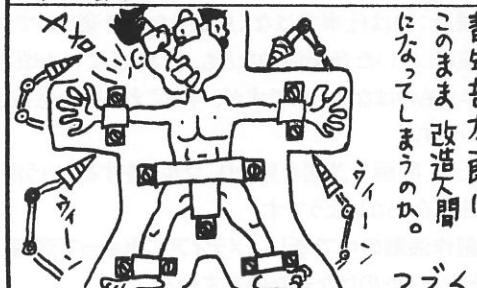
青年部に入会し初めてメディア・広報系の委員会に所属した。今年のメディア委員会のメンバーは私を含めて初めて経験する人が大半だ。

そこでミニコミ誌記事の書き方の勉強会を、5/20に福井新聞社の文化生活部長の渡辺数巳氏を講師に招き実施した。その中で「長のつく人の挨拶はつまらない」「インタビューなどの見出しはその内容のポイントを」などためになる話が多く聞けた。この福居91号はその成果が出ているに違いないと確信している。 M.S

青年部マン

青年部マン誕生の巻
[その1]

作: ロドリゲス・加藤



ARCHITECT IZUTA OFFICE

当事務所は犬小屋からホテルまで誠意をもってお手伝いいたします。もちろん住宅も設計監理いたします。設計料は必要ですが、決して高くはありません。夢の実現に向けて私まで御一報下さい。

出田建築事務所

代表 出田 吏市 (一級建築士 日本建築家協会 福井大学非常勤講師)

〒910-0017 福井市文京5丁目17-3ハヤヤビル201
tel 0776-25-9355・fax 0776-25-9396

宇佐美材木グループ シンワのホーム

■木にこだわり続け、丈夫で、人に優しい
ひとつ上の高機能木造住宅を提供いたします。

《事業内容》

住宅設計・施工
材木加工・建材加工
不動産

福井市川尻町41-76
Tel 0776-85-1546(代)
y-usami@fcci.or.jp



二の宮本店 O P E N メンズサロン ヴォーグ



美容室
マリージョゼ

二の宮本店 TEL(0776)23-2515
デュオ北の庄店 TEL(0776)27-2522
リーベ駅前店 TEL(0776)28-3790
ワイプラザ店 TEL(0776)52-5380
セラ武生店 TEL(0778)21-5770

くらし、こころ…知・創・人。

地球に笑顔とやさしさを……



鉄鋼・機械・管材・建材・商社

吉岡幸株式会社

本社 〒910-8622 福井市宝永3-22-5
TEL.(0776)22-2211 FAX.(0776)21-4515

□鯖江支店 □敦賀支店 □三国営業所
□金沢営業所 □鋼材センター □管材センター
□建材センター □ねじセンター □丸岡センター



作家・プロデューサー

水城 雄さん

COVER INTERVIEW

オリジナリティある物づくりを大切に

プロフィール

水城 雄 (みずき ゆう)

1957年5月生 福井県勝山市出身

京都同志社大学商学部中退

23歳より音楽活動

26歳に帰省

29歳徳間書店より小説家としてデビュー

ネットワーク利用が始まり、県内パソコン通信のシステムオペレータとして関わる。近年はインターネット電子出版のプロデューサーに関わる。

今回は小説家であり、また各分野でのプロデュース活動にも精力的に関わっていらっしゃる水城雄氏に、創作活動から福井の産業界に至るまで、幅広くお聞きすることができました。

会場も、大野市七間美術館で展示品に囲まれながらの、とても良い雰囲気でのインタビューとなりました。



■最近のプロデュースのお仕事が多いのでしょうか？

水城氏：量でいえば圧倒的にプロデュースの仕事が多いですが、あくまで小説家としてのアイデンティティーを保ちながらプロデュースもやっています。

■執筆活動以外にもデッサン画の個展なども開かれています。創作活動としてはどちらが中心なのでしょう？

水城氏：絵は仕事ではなく息抜きなので楽しいです、一時本業にしていた音楽活動なども、仕事としていた頃はこれほど辛いものはなかったですが、今はこれもいい息抜きになっています。

ただ、映画や芝居を見たり、ゴルフをするという消費型の趣味は合わないようです。

■創作活動の中で新しいメディアに出会って活用していくことになったのはなぜなのでしょう？

水城氏：小説家に対するイメージは田舎だから固定化していたり目立つけれども、東京とかニューヨークなど世界中見渡せば、メディアにこだわらず表現している人たちはいっぱいいます。この様な人たちは、文字表現とか映像表現とかにこだわらずにやっています。その時その時で、面白い物、効果的なものを使いこなしているんです。

福井でも、もっとこだわらずに自分の可能性を掘り起こしたらよいと思います。今の時代はいろんなメディアが出てきて、地域に関係なく表現できる環境が整っているじゃないですか。

■芸術を産み出すことを含めて、消費するだけ流通するだけというより「物を造る原点」が大事だということですね？

水城氏：田舎は生産をベースとしてもっと活性化した方がいいと思います。この七間通りでも、元気な店とそうでない店があって、元気な店は味噌屋さんや醤油屋さんなど「物を造って売っている」店です。田舎はマーケットが小さいので生

産者である限り元気です。七間朝市のおばあちゃんが元気なわけです。(笑)

しかもオリジナリティーがないとだめですね。「その土地にしかない物」「その会社でしか作れない物」その部分での頭を使わないでいます、いまの福井の企業は。

私もいろいろな会社に提案していますが、なかなか経営者に理解してもらえないですね。私のようなもののアイデアをまじめに捉えて「ひょっとして」と少しでもやってみれば、面白くなることもあります。

物にとらわれすぎていて「うちでやってもだめだろう」という発想なので、しょうがなく東京の会社に提案して仕事生まれ、結局東京の会社としか仕事をしていない状態です。もったいないと思います。

■それは資本力の違いですか？

水城氏：資本力の違いや地域の距離ではなく、受け入れる発想の違いでしょう。「それやってみよう」というベンチャー精神のようなものだと思います。

たとえば、今プロデュースしている会社では、印刷業者が出資している会社で、紙ではなく電子媒体での出版を模索しています。いろいろアイデアを出し合いながら今軌道に乗ろうとしているところです。しかしもとはゼロですヨ。

私が本当の意味でやりたかったのは、福井で仕事を創り出すことです。たとえば全く新しいベンチャーなビジネスを造りたかったです。

しかし、福井ではまだ難しいですね。このままでは5年後10年後には、福井は下請けの地域性になってしまう。福井だけぽっかりと物づくりのない地域になってしまうと思います。

■創作活動に対するスポンサーが希薄になっているということでしょうか？

水城氏：経済至上主義となっているせいでしょうかね。そこで、例えば、大野に美術館を造るとすると大変ですが、ホームページ上でバーチャル美術館を開設して電子作品を購入して展示します。購入することで作家を育て、かつ世界ベースのデジタルアート展を開く。全国から人が集まり人が育つ。この波及効果は大きいと思うのですが、いかがでしょう。

創作活動から福井の地域性まで、水城氏の見識の広さを伺うことができました。同氏のますますのご活躍をお祈りいたします。